



# 海外の医療から日本の医療を考える

## 第1回：韓国にみる医療へのアグレッシブさ

多摩大学 医療・介護ソリューション研究所 教授  
一般社団法人 JA共済総合研究所 客員研究員  
真野 俊樹

### 1. はじめに

今号から数回にわたり「海外の医療事情シリーズ」と題して連載していくこととしたい。折しも政府は、社会保障制度改革国民会議を立ち上げ、持続可能な医療・介護・年金制度の構築に向けて、「自助・共助・公助の最適な組み合わせ」など、これからの社会保障制度の形について議論を進めている。医療分野についても効果の高い政策が打ち出されることを期待しているが、こうした議論において注意しなければならないことは、合目的な思考に陥りやすいことである。海外の斬新な事例が要約的に紹介され、それと単純に比べることで「それに引き換え我が国の制度は…」式の認識になっては現状に新たな問題を加えるだけであろう。そこで本シリーズでは、とかく比較材料とされがちな諸外国の医療事情について、その落とし穴も含めてレポートしていくこととしたい。第1回目と第2回目はお隣の韓国を取り上げる。今号では医療観光（メディカル・ツーリズム）や高度医療の取組みなど産業的な側面を中心に紹介する。米韓FTAで医療分野でも大幅な規制緩和が進んだ同国の医療現場の実情をご報告するとともに、その危うさについても言及したい。

### 2. 韓国の社会保障制度の背景

韓国では、1987年に軍事政権が終わり、以

降民主化プロセスが進んでいく。80年代前半までの社会保障制度・政策というのは、経済成長を優先させ、財政が余ったら社会保障にあてるといふ、いわば救済策のようなものであった。1961年に公務員年金・生活保護、1963年に軍人年金、といった制度が限定的な形で政権の正当性のために実施されるという範囲にとどまっていた。そして、社会保障制度の整備が本格化するのは1980年代後半の民主化プロセス以降である。

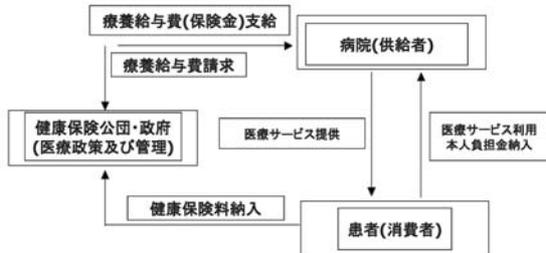
公的医療保険制度が、本格的に実施されたのは、1977年、従業員500人以上の事業所の勤労者とその扶養家族を対象とした、「職場医療保険」からである。

このように1977年に大企業が公的医療保険に強制加入となり、1988年に自営業者、1989年に非都市住民が制度の対象となって国民皆保険が達成された。しかし、皆保険制度といっても金銭的な制約があり、医療に対するカバー率は高くない。日本の公的皆保険の医療に対するカバー率に比べれば3分の2から半分くらいではないとも言われている。

### 3. 韓国医療の特徴

韓国の医療の特徴は「産業的」医療であるという点に尽きる。注意すべき点は、韓国の医療制度が日本と米国から学んだものであるということだ。日本の医療制度に倣った部分

(図1) 韓国の医療システム



では、比較的最近の1989年に完全施行された国民皆保険制度を持っている点、診療時に自己負担がある点、病院経営に株式会社が認められていない点など多くある(図1)。

米国の医療制度に倣った部分では、自己負担による経済誘導、IT化の推進、完全医薬分業、治験の推進、病院のM&Aなどがある。最近では、むしろ日本より米国の影響の方が強いのではないかと思える場面も多くある。その他にも韓国では、国家免許制度として専門医免許制があり、医師免許を取得した後、取得を試みることになる。専門医免許を取得していない医師の場合、病医院を開業する際に専門の診療科を標榜することはできないといった点も米国流である。

さてここで、韓国での病院経営の状況を見てみよう。病院も日本と同様に民間病院が多い。韓国の病院経営事情で特記すべきは、病院経営状況の悪化である。中規模から小規模の病院に、倒産の波が訪れている。その理由としては韓国の患者が大病院志向であるからだという。確かに後述するような大病院はますます巨大化している。そして中小病院で専門性がない病院が倒産の憂き目に会っているというのが実情だ。

ただ、大病院志向は患者だけではないようだ。病院倒産のひとつの理由に医師不足も挙げられている。特に、胸部外科、眼科など一

部専門医は求人難で、人件費の急増が起きているようだ。

#### 4. 韓国の大病院の現状

##### (1) 特殊法人ソウル大学病院(元国立大学病院)

ソウルには5大病院といわれる大病院がある。そのうちの1つは特殊法人(ソウル大学病院)、4つは私立である(セブランス病院・サムスン医療院・聖母病院・アサン病院)。5大病院の一角を担うのが、特殊法人ソウル大学病院である(写真1)。この病院は1885年、韓国初の国立病院として設立され、国立ソウル大学医学大学及び歯科大学付属病院を経て1978年、特殊法人ソウル大学病院へと改編した。つまりソウル大学は国立だが、病院だけ切り離した形で運営(特殊法人化)している。

本館前には、由緒正しい旧本館(次頁写真2)がある。1907年に設立された大韓医院の建物で、文化財に指定されている。旧本館には、韓国の病院と臨床医学の発達に関する史料や遺物を永久に保存し継承する医学博物館が設けられている。

ソウル大学病院は、1985年10月に国内で初

(写真1)



(写真2)



めて300病床を誇る小児診療部を開設した。小児診療における専門家の養成、小児疾患の治療法の開発・研究、そして小児科患者の診療機能を体系的に遂行し、国家の礎ともいえる子供たちの健康増進に大きく寄与している。2013年現在、約1,500の病床と1日4,000名を超える外来患者を診察している。

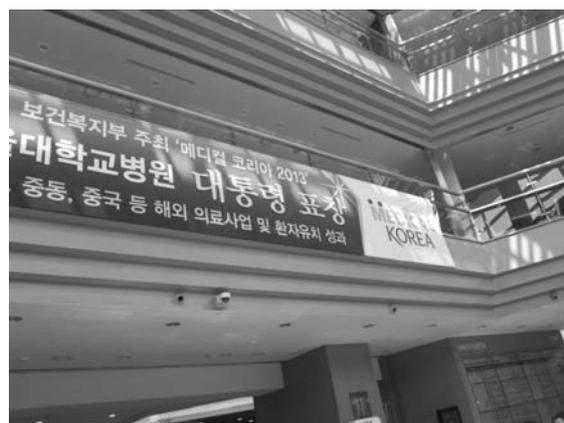
また、近隣のブダンソウル大学病院、子供病院、ソウル大学病院江南センター、ソウル大学歯科病院と協力して、ソウル市のボラメ病院を受託運営している。ボラメ病院の2009年における合計病床数は1,697病床であった。

韓国では、医療観光が政府の正式な政策として位置付けられている。特殊法人とはいえ、政府の意向を受けるソウル大学病院でも、セブランス病院などの私立病院の動きを受けて医療観光に取り組み始めている。1999年から実施しているソウル大学病院国際診療センター(写真3)には日本人の看護師を常駐させており、2010年から規模を拡大し、国から医療観光への取り組みが表彰されたという、大きなのぼりが立っていた(写真4)。また家庭医学専門の医師を常駐させており、モンゴル、ロシア、カザフスタンからの患者を

(写真3)



(写真4)



多く診察している。外来の外国人患者(韓国在住含む)は年間16,000人、入院は850名という規模である。

病院全体の高度医療機器としてはPET-MRI: 1台、PET-CT: 3台、SPECT-CT: 1台、サイクロトロン: 1台を所有している。また、がん診療に対する教育センターも設置している。「完全な民間病院が採算の部分で取り組みにくい高度医療や研究にも取り組んでいる」という説明を筆者は現地で受けた。

(2) セブランス病院

次に私立病院の現状を紹介する。セブランスは、日本でいうと慶応大学のような韓国で有数の私立大学である。そして、この大学の附属病院がセブランス病院ということになる。セブランス病院は1885年に米国人宣教師アレンと米国の事業家セブランスの寄付により、「神の愛で人類を疾病から自由にする」という使命で設立された韓国ではじめての西洋式病院である（写真5）。

グループとしては、今回筆者が訪問したソウル新村地域に位置するセブランス病院本院（5つの専門診療機関、国際診療センター、ダヴィンチ<sup>1</sup>トレーニングセンター、歯科大学病院を含む）、江南地域に位置する江南セブランス病院（3つの専門診療機関）、及びその他2つの地域病院を保有している。2009年の合計病床数は3,137病床であった。セブランス病院本院は癌センター、リハビリ病院、心臓血管病院、子供病院、国際診療センター、救急診療センターなどの専門センターと、癌専

門クリニックを運営している。写真6に示すように500床規模の癌センターも建築中である。また、セブランス病院は2007年に韓国で初めて、大学病院としてアジアで初めてJCI<sup>2</sup>（国際医療機関評価）認証を取得し、江南セブランス病院もJCI認証を2010年に取得した。長らくサムスン医療院が1位であった顧客満足度調査をここ2年間奪取している。

セブランス病院の高度医療への取組みの代表的なものは、2005年のダヴィンチ導入と、それによる手術の成功だろう。

また、エヴィソン医生命研究センター（2013年竣工予定）といった基礎研究、治験も重視している。米国のテキサス州立大学MDアンダーソンがんセンター（MD Anderson Cancer Center）の他、海外有数の医療機関とのネットワークを行っている（次頁図2）。さらに、医療観光の患者が多いモンゴルに進出を考え、江南のセブランス病院はロシアと交流しているという。

(写真5)

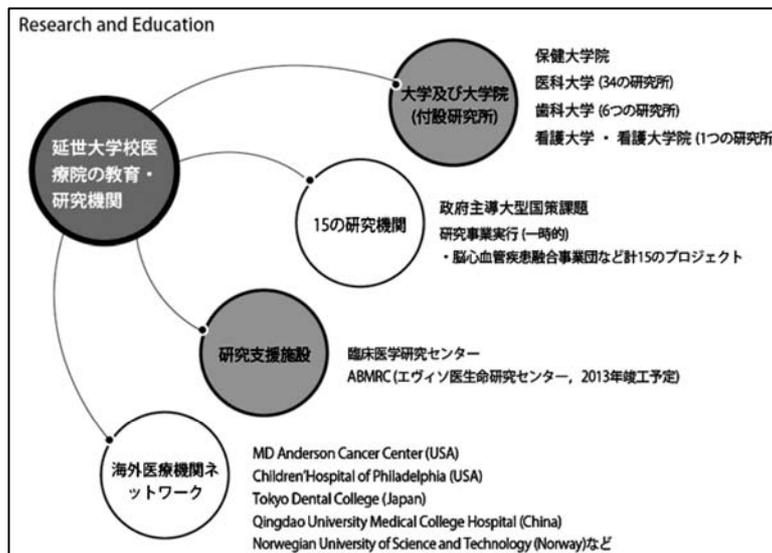


(写真6)



1 ダヴィンチとは、手術用ロボットの名称  
2 Joint Commission Internationalの略

(図2) セブランス病院の研究と教育体制



(出所) セブランス病院ウェブサイトより

### (3) サムスン医療院

韓国にはいくつかの財閥がある。韓国最大の財閥サムングループの中核企業であるサムスン電子は、2010年の売上が大韓民国のGDPの22%、株式時価総額は韓国株式市場の25%、韓国の輸出額の24%を占め、資産は韓国全体の国富の3分の1に迫る。「フォーチュン・グローバル500<sup>3</sup>」では、世界企業ランキング20位(2012年)という巨大企業である。

この会社は、次なるターゲットに医療関連分野を選んだ。CT、MRIなど目立った医療機器はまだ手がけていないが、バイオ医薬も含め医療分野に注力していくと宣言している。その実験場ともいえるのがこのサムスン医療院である。

サムスン医療院は生命尊重の精神を基に、最高の診療、教育、研究を実践し人類の健康、人材育成、医学の発展に貢献するという目的を持って設立された総合病院だ。

1982年5月、サムスン生命公益財団が創業

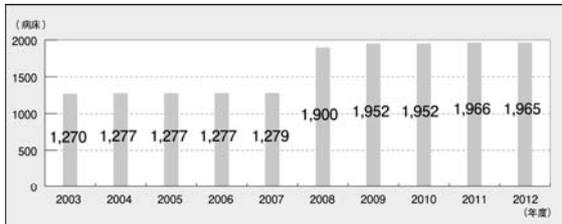
されたことから始まる。1994年11月9日には1,100病床を持つサムスンソウル病院が開院された。現在では、地上20階、地下5階のビルを持ち、1,951病床と40の診療科、8つの専門医療センターと110余りの特殊クリニックから構成されている。1,200余名の医師と2,000名の看護師を含む約6,500名の人材が勤務している第三次医療機関である(写真7、図3・4)。

(写真7)



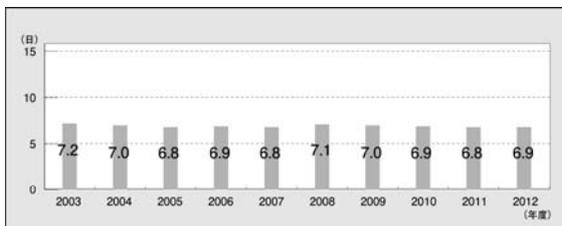
3 米国の『フォーチュン』誌が、年に1回発表している世界番付上位500社のこと

(図3) 病床数の推移



(出所) サムスン医療院資料より筆者作成

(図4) 在院日数の推移



(出所) サムスン医療院資料より筆者作成

2008年1月2日に診療を開始したサムスンがんセンターは、地上11階、地下8階で652病床（重患者室 40病床、無菌室 36病床、通院治療センター 67病床を含む）を完備している。20の手術室があり、単一の建物としてはアジア最大のがん専門治療センターで、がん患者のための包括的な治療を実現しようとしている。

サムスン医療院では開院3年前から中堅の医療関係者を予め選抜して海外研修に送っている。患者中心の医療サービスを実現しており、患者満足度が高いことでも知られる。日帰り手術（Day Surgery）、各種先進医療技術を韓国で初めて試みることで、韓国の医療業界に大きな影響を与えている病院でもある。

また企業マインドも旺盛でゴールドマン・サックスから支援を受け、「ブラボープロジ

ェクト<sup>4</sup>」をスタートすると発表したり、米メイヨークリニック（Mayo Clinic）とMOU<sup>5</sup>（覚書）調印したりしている。

現在、サムスングループのIT企業であるサムスンSDSにEMR<sup>6</sup>（電子カルテ）を作成させており、一部の中小病院には既に電子カルテを導入しているようである。また、UAE（アラブ首長国連邦）と病院が包括的な医療提供契約をかわしている。しかし、筆者がヒアリングした限りでは、電子カルテで積極的に国外にビジネス展開を行おうという意思は感じられなかった。

電子カルテ以外にも、サムスン医療院はいくつかのITシステムを装備している。そのシステムの主眼はマネジメントに生かす、あるいは患者の利便性を向上させるということである。

マネジメントに生かすという点では、手術室の管理を行い、写真8のような管理室がオペ室の清潔区域外におかれている。このため遠隔でオペに参加、指導も可能である。

(写真8)



4 乳がん完治患者の社会復帰支援のプロジェクトのこと

5 Memorandum of understandingの略

6 Electronic Medical Recordsの略

実は韓国の電子カルテの普及は病院の患者囲い込み戦略とリンクしている。患者照会システムも同じで、協力病院を増やしたいという意図もある。

サムスン医療院では韓国で初めて構築した依頼患者照会<sup>7</sup>に関してウェブサイトを持っている。このシステムは、サムスン医療院と協力関係にある協力病院の医師が依頼した患者の全ての診療情報をウェブサイトで共有できるようにしている。さらに依頼患者の情報だけでなくサムスン医療院の医療陣との自由な意見交換、コミュニティの構成、医学情報と教育ニュースなどを提供している。

患者の利便性には何があるのでしょうか。ユビキタス・ホスピタル (Ubiquitous Hospital) と言ったりもするが、サムスン医療院では電子化を徹底した病院を目指している。例えば、2003年8月4日から韓国で初めてスマートフォンで医療者と役職員を対象に音声とデータ情報の「モバイル・ホスピタル (Mobile Hospital)」と命名されたサービスを提供している。そのサービスでは、スマートフォン (モデル名: MITs 3300、サムスン電子) により音声通話サービスと診療情報を含む各種データサービスを提供している。これにより患者対応が迅速になる。また直接患者にも、ネットでの予約システムの提供や検査データの公開を行っている。

なお、サムスン医療院はサムスングループの実験場としての位置づけでは当初はなかった。日本の株式会社病院と同様に従業員への福利厚生ということで始まった。このあたりも、急速に医療の産業化へ向けて舵を切る韓国の様子が見て取れる。

## 5. おわりに

今回は産業化の道を邁進する韓国医療と巨大病院について述べた。次回は、社会保障という視点で韓国医療を考え、日本的な側面も含めて今回とは異なった視点で、韓国医療の危うさについても考察したい。

### (参考文献)

- ・広井良典・駒村康平 (2003) 『アジアの社会保障』 東京大学出版会
- ・セブランス病院ウェブサイト ([http://www.yuhs.or.kr/jp/yuhs\\_network/hospital/severance/](http://www.yuhs.or.kr/jp/yuhs_network/hospital/severance/))
- ・サムスン医療院ウェブサイト (<http://www.samsunghospital.com/global/jp/main/main.do>)

---

7 病病または病診連携による他院からの依頼のこと